

P.307 17番（大原裕貴君）

◆17番（大原裕貴君）＝登壇＝第50号議案、芦屋市立あしや温泉の設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定について、賛成の立場で討論します。

あしや温泉は、阪神・淡路大震災の発災後、市内の公衆浴場が閉鎖される中で、被災された市民の入浴機会を確保し、公衆衛生を維持する施設として大きな役割を果たしてきました。この歴史的経過については尊重されるべきことだと認識をしています。しかし、既に震災から30年以上が経過をし、各家庭の住環境や市内の公衆衛生を取り巻く状況は、設置当初から大きく変化をしています。

あしや温泉には地域コミュニティの形成や福祉的な効果があるとの意見もあります。こうした効果を否定するものではありません。しかし、地域コミュニティや福祉的な役割については、それぞれの目的に応じた施設や施策があります。温浴施設に様々な付加価値があるとしても、その中心的な機能が入浴であることには変わりありません。

また、主たる設置目的であった公衆衛生についても、現在の社会情勢を踏まえると、多額の公費を投入して市が維持をしなければならないほど公益性の高い施設と位置づけることが難しくなっています。

公共施設の在り方を考える際には、そのサービスが行政でなければ提供できないものなのか、市民生活に不可欠なものなのかという観点も必要です。温浴サービスは既に多くの民間事業者によって提供されているサービスです。また、市民生活に必要な不可欠なサービスとも言い難く、利用するかどうかも個人の選択に委ねられています。その意味であしや温泉は、市場的かつ選択的な性質を持つ施設であると考えます。

また、あしや温泉では毎年赤字が生じており、直近3年間では年間平均約1,200万円の支出超過となっています。また、市内の実利用者数は年間約900人と推計をされており、今後も大幅な利用者の増加を見込めないとされています。

利用料金を引き上げ、経営を改善すべきとの意見もあります。しかし、公共施設として考えるべきなのは、単に施設の収支を改善できるかということではなく、より多くの市民に利用してもらえる施設にできるかどうかという点も考えなければなりません。料金の引上げは収支改善に資する可能性はありますが、利用者の増加にはつながりません。むしろ利用のハードルを高め、利用者の減少につながる可能性もあります。

さらに、あしや温泉は一般公衆浴場であり、物価統制令により事業者の独自裁量で自由に料金を設定することができません。人件費、光熱費、修繕費などが上昇しても、それを柔軟に料金へ転嫁することが難しく、経営形態そのものに構造的な厳しさがあります。全国的に一般公衆浴場が減少していることも、こうした経営の難しさを表していると考えます。

一方、スーパー銭湯などその他の温浴施設という形であれば、サービスの内容や付加価値に応じて料金を設定し、民間事業として成立をさせる可能性があります。つまり温泉や温浴事業そのものに可能性がないということではなく、一般公衆浴場という現在の経営形態を維持していくことが難しいということです。

施設については、今後の安定した運営のために、少なくとも約8,000万円の改修費用が必要とされています。また、施設を長期にわたって維持するためには、さらに多額の費用が見込まれています。

施設を建設して間もない段階であれば、引き続き活用することを検討する余地もあります。しかし大規模な修繕や設備更新が必要となる現段階では、今後も公共施設として維持する必要があるのかを改めて判断しなければなりません。

市場的かつ選択的な性質を持ち、毎年赤字が生じ、価格設定の制約から抜本的な経営改善も難しく、利用者の大幅な増加も見込めない施設について、大規模修繕が必要となるこのタイミングで廃止を検討することは、合理性があると考えます。

守べきは、現在のあしや温泉という施設運営の形そのものではなく、芦屋市が保有する貴重な源泉であると考えます。委員会審査では、施設の廃止後も源泉は市が引き続き管理をし、民間事業者の知見も活用しながら、現在よりも広く市民に活用してもらえる運営形態を模索していくという考えが確認できました。また、マンションなど公益性に欠ける施設として活用することは望ましくないという考えも市から示されています。

今後の展開には不安はありますが、公の場での市の答弁という形で、一定の担保が得られたものと判断をしています。

施設を廃止することと源泉を手放すことは同じではありません。現在の施設形態にこだわり、多額の公費を投入し、利用者が限定的な施設を維持するのではなく、源泉は公共の資源として市が守り、より多くの市民に活用してもらえる新たな形へ転換していくべきだと考えます。

多様な世代の市民が広く利用できる施設となることを検討していただくことを要望し、賛成討論といたします。